清流 あしりべつ

発行
清田地区町内会連合会
〒004-0841
清田区清田1条2丁目
TEL883-7600
FAX883-8057
発行責任者　牧野　晃

清田区のシンボルに選ばれた 平岡公園（梅林）

清田区では、平成十九年の誕生十周年を記念し、区を象徴するものとして、区民応募による三八〇点の中から「白旗山」、「あしりべつ川」、「平岡梅林」の三点を「清田区のシンボル」に選定し、同時に十二の「清田ふるさと遺産」を選定しました。

昭和五十七年から造成がはじまった平岡公園の梅林は、六・五ヘクタールの広大な敷地の中に、四対六の割合で植栽された約千二百本の豊後性の紅梅種と白梅種が美しく咲き誇り、いまや道内有数の梅の名所になっています。

今年は天候不順のため、開花が大幅に遅れましたが、例年五月中旬の開花期には「平岡公園梅まつり」が開催され、道内外各地からの観光客など、およそ十～二十万人が訪れ、色鮮やかな花の美しさと、梅の香りを楽しみます。

梅林の名所として知られるほか、山林や散策路など、自然の地形を活かした敷地内には、パークゴルフ場や野球場、テニスコートなどのスポーツ施設も完備、多くの市民に利用されています。

（清水延明）

新年度を迎えて、その課題

清田地区
町内会連合会　会長
牧野　晃

平成二十五年度の定期総会は四月二十日（土）に開催され、代議員の皆様方のご協力により今年度の活動計画、予算が原案通り承認頂きました。

その中で、今年度取り組むべき重点課題を三点明らかにしております。

一つは、福祉の課題として、ひとり暮らし高齢の方々の「孤立死」を防ぐ取り組みです。「福祉のまち推進センター」を中心に意欲的、継続的に活動が進められており、協力員の皆さんのご苦労に感謝申し上げます。

今後も町内会の多くの方々の協力により、「声かけ運動」や「見守り活動」を継続して取り組みましょう。

二つは、防災と災害時の避難支援の体制づくりです。

二年前の三・一一の教訓を生かし、大地震が発生し「いざ、避難を」と云う時に、誰が高齢の方や身体の不自由な方々を助けるのか？区全体で取り組んでいる課題ですが、それぞれの町内会にとって大きな喫緊（きっきん）の課題であります。

各町内会では、問題の理解と協力を得ながら組織づくりに努力しておりますが、その進捗状況は、まだ、「活動半ば」との報告です。取り組みは三年目にあたり、今年はお互いに思いやりの心をもって、この課題をやり遂げましょう。大災害の教訓を風化させないよう、取り組みの推進こそ大切です。成果を期待しております。

三つは、清田地区町内会連合会の設立五十周年が平成二十七年にやって参ります。町連は、豊かな自然のもと、心の通い合う地域社会の実現を目指して、昭和四十年に発足致しました。

それ以来〝住みよいまちづくり〟を目標に掲げ、時代の変化に対応しながら課題実現に向け若さと活力に満ちた活動を展開し、地域発展に努めてまいりました。

町連発足以来五十年、これは単に年数の問題ではありません。

先輩諸氏による地域の発展を目指した活動を代々受け継いで、現在に至る五十年の足跡であり、清田まちづくりの歴史であります。

私達は、清田の発展を展望し活動にあたった先輩諸氏の情熱とご苦労に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表するとともに、受け継いできた貴重な遺産を次世代に手渡し、未来につなげることが責務であると思います。その機会が、まさにこの五十周年記念事業であります。

現在、五十周年事業の実施について準備委員会を立上げ、記念誌の編集を中心に取り組みを始めようと云う段階です。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

二十五年度定例総会

清田地区町内会連合会の「平成二十五年度定例総会」が午前十時から清田区民センターで開催されました。（定数七十四人に対し、役員・代議員の出席数五十九人、委任状十二人）

席上、牧野晃会長が住みよいまちづくりを目指し努力していますが、高齢者の孤立死を防ぐ日常的な支援、子どもたちやお年寄りの安全を守る防犯・防災に関する体制・組織などが活動半ばになっており課題が何点か顕在化しています。問題解決のため近隣の人々とのつながりを大切にし一体感を生み

お願い

歴史を語る古い写真お貸し下さい

清田地区町内会連合会は平成二十七年に創立五十周年を迎えます。

これを機会に「記念誌」を発行する事になりました。

内容の一部で清田地区の歴史を物語る写真の掲載を考えております。ご自宅に写真があれば若干の説明を書き添えてお貸し下さい、連絡をお待ちしております

写真は掲載後に町連が責任を持ってお返し致します。

送り先は

〒〇〇四－〇八四一
清田区清田一条二丁目五～三十五
清田まちづくりセンター内
清田地区町内会連合会事務局

出す活動を粘り強く進めることが大切です」と挨拶。続いて、真栄団地町内会の佐波哲雄さんを議長に選出し議事に入りました。

そして二十四年度の事業と決算報告、二十五年度の事業と一般会計予算案、印刷機事業会計案、五十周年記念事業会計予算案が審議され原案通り承認されました。

最後に二年に一度の役員改選期を迎え新役員の選出について選考委員長から報告が行なわれ全員が承認されました。（詳しくは十ページの平成二十五年度清田地区町内会連合会役員名簿を参照）

おねがい

二十五年度定例総会の議案書について詳しくお知りになりたい方は、町内会の会長、代議員、又はまちづくりセンターにお問い合わせ下さい。

住民相互の〝共助〟が不可欠

清田区長　新谷　光人

本年四月に清田区長に就任しました新谷です。

「清流あしりべつ」の発刊にあたり機会をいただきましたので、清田地区の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

平素より清田区政に対しまして、皆様からの特段のご理解とご協力をいただいていること、心より御礼申し上げます。

就任以来、地域の様々な取り組みを拝見しておりますが、清田地区におかれましては、町内会連合会を中心とした「清田地区住みよい安心安全なまちづくり協議会」での環境美化活動をはじめ、清田地区社会福祉協議会の福祉のまち推進事業を通じた高齢者の見守り活動など、様々な地域活動に活発に取り組んでおられます。皆様の献身的なご尽力に心より敬意を表します。

近年は、極めて規模の大きな震災や特異な異常気象など、大きな災害が頻発し不安の多い状態が続いております。

いつ起こるともしれない災害に対しては、地域の皆様が日頃から互いに協力し助け合うことが重要であり、住民相互による「共助」の取り組みが不可欠であります。今後とも様々な地域活動を通して常日頃から地域の絆を深められることを期待しております。

清田区としましても、皆様とともに「みどり豊かで、地域のふれあいあふれ、誰もがやすらぎを感じるまち」を目標に、住みよいまちづくりに向けて様々な施策を進めてまいりますので、一層のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

もちつき大会

子ども達が歓声

青少年育成部

師走最初の日曜日の午前、真栄地区会館から子ども達の歓声と餅をつく音が響きました。青少年育成部と清田地区青少年育成員会が毎年開催している恒例行事「親子レクリエーションもちつき大会」です。

この日は早朝から降雪となり参加者の出足が心配されましたが親子連れが次々とつめかけ会場は早々に埋まりました。

湯気が立ち上る臼に重たい杵を振り下ろす親子連れ、殆んどが初めての経験で、つきあがった時には全員が興奮状態でした。

つきたての餅は「雑煮、砂糖醤油づけ、きな粉餅」などにされて早速試食。わずか二時間の開催でしたが、餅をつき、舌つづみを打ちひと足早い正月気分を味わっていました。

（部長　田上　雄二）

今年もきずなの光が点灯

厳寒の一月二十四日、薄暮に包まれた真栄中学校が周囲に並べられたキャンドルの灯りで浮かび上がりました。

これは、ぬくもりの光を通して地域との絆を深めようと、清田地区住みよい安心安全なまちづくり協議会と真栄中学校が共同で開催した「きずなの光」で今年で四回目になりました。この日に備えて一～二年生がスノーとアイスのキャンドル合わせて九〇〇個を作り上げ、校舎をコの字形に取り囲みました。

そして全体が薄暮に包まれたころ点灯。校舎が「きずなの柔らかな光」に包まれ、周囲の雪明りとあいまって幻想的な雰囲気に包まれました。

初めて参加した女生徒は「すごくきれい」と目を輝かせ、また道行く人たちは「いつもの雰囲気と違う、とてもすばらしい」と話し通り過ぎていました。

生きるために…炊き出し訓練

女性部

東日本大震災から一年九か月目の二十四年十二月十一日に防災訓練のひとつとして清田消防署から消防士を招いて講習会を開きました。

講師は東日本大震災で実際に災害救助にあたった消防士の方です。

彼らは、第十二次清田救助隊として仙台に入港、石巻公園をベースキャンプとし、針丘地区や多くの犠牲者が出た大川小学校周辺の救助・捜索にあたりました。先に現地入りしていた隊員の話や新聞・テレビなどで見聞きしていても、現実を目の前にして、言葉を失う程の惨状に息をのむしかなかったそうです。特に大川小学校周辺の捜索では現場を見つめる家族のために、何んとしても遺難者を見つけ出さねばとの思いで職務に努めたとの事でした。

このあと、実践編として「炊き出し訓練」を行いました。

それぞれが持ち寄った食材は普段から家に有るであろうと思われる三〇〇円前後の材料、水道は使えない事を想定してペットボトル一本分の水でした。

集まったのはジャガイモ、小麦粉、インスタントラーメンなど様々です。

早速、食材の仕分けからスタート。

「ジャガイモ、人参、カレールーもあるのでカレーにしましょう」「ツナ缶とキャベツはサラダに」「大根とサバ缶で煮物」「お好み焼きも出来そう」と次々にアイディアが出てスムーズに調理が始まりました。

水道が止まっているため洗い物、調理には持ち寄ったペットボトルの水を節約しながら使用、煮炊きはカセット式ガスコンロを使いました。

まな板の代わりには牛乳パックを使用、サラダは刻んだ野菜とドレッシングを一緒のポリ袋に入れてもみ込みました。十六人が持ち寄った食材から一時間ほどでアイディア通りの食べ物がテーブルに並べられました。

試食ではそれぞれ完成品を口にしながら「あの材料でこれだけの物が出来るとは、マ

ンパワーですね。

今回の経験から、いざと言う時でも何とか出来るんだと思えるのは安心な事ですね。」などの話が出ていました。

現実の災害ではカセットコンロやペットボトルの水も、一粒のお米も無いかも知れません。でも、地域の人たちが集まって生きるための知恵を出し合えば、何とか頑張れるのではないでしょうか。

自然災害は何時襲って来るか判りません。私達は自然災害に対して無力です。少しでも生き延びるためにも災害訓練、講習を受けて置くのが賢明と思われます。

東日本大震災の教訓を風化させないために、そして、生きのこるために!!

（佐々木康子）

子どもたちを守る防犯ボランティア

四月八日（月）午前八時すぎ、真栄小学校へ向かう通学路で、父母に付き添われた新一年生の元気な姿が続きました。この日は待ちに待った入学式です。柔らかな朝日を全身に受け真新しいピカピカのランドセルに心を弾ませる新一年生、途中、防犯ボランティアのメンバーから「いってらっしゃい」の声にうなずきながら元気に学校へ向かっていました。

ところで清田地区町内会連合会では防災防犯部が子どもの安全を守るため、地域の人たちが協力して見守り活動に取り組んでもらおうと平成十八年に「防犯ボランティア」を募集、十一町内会で多くの協力者が登録し現在に至っています。

活動は義務ではなく、それぞれが可能な日時に黄緑のベストを着用し、登下校の時間帯に通学路に立っています。そして周囲に不審者がいないか気を配るとともに、交差点などの交通量の多い場所では注意の声掛けなどを行い、子どもたちが安全に安心して登下校できるよう優しい眼差しで見守っています。

また「いってらっしゃい、おかえり」などの毎日の挨拶でコミュニケーションを図り交流を深めています。

道内では交通事故に遭った小学生の死傷者の四割が、五～七月の三ヵ月間に集中していると云われています。特に死亡事故では七割がこの時期で、専門家は「新入学時よりも、むしろ通学路に慣れだしたころが危険」と指摘しています。防災防犯部では四月八日から三十日までを「子どもを守る強化月間」として通学路のパトロールを実施するなど、子どもの安全に目を光らせましたが、保護者の注意喚起が一番大切で欠かす事が出来ないのも事実です。

通学路には大人の目線で気づかない危険な場所が存在しています。

学校でも交通安全の指導をしていますが、多くは地域の人たちの善意に頼るところが多くなっているのが現状です。

町連に加盟している十一町内会で防犯ボランティアに登録しているメンバーは四月一日現在で一〇〇人となっています。この一〇〇の目が子供たちに優しく注がれているのです。

防犯ボランティアの皆さん、連日お疲れ様です。

（小山田義信）

地下鉄の延伸問題で二回目の情報交換会

展望がなかなか開けない地下鉄建設問題で現状を正確に把握しながら今後の在り方についてアドバイスを得ようと地下鉄建設促進期成会の情報交換会（二回目）が四月八日（月）に清田まちづくりセンターで開催されました。

参加したのは期成会の顧問で清田区選出の道・市議会議員、ライオンズクラブ、商工振興会の関係者で、様々な意見を出し合いました。

主な内容は左記の通りです。

○ティッシュの配布を野球で混み合う福住駅で配った方が効果的ではないのか、〝清田で地下鉄を欲しがっているぞ〟という印象が必要だ。

○超党派で代表質問に立つ機会には〝清田の〟まちづくりの方針と延伸〟の話を必ず取り上げるよう申し合わせている。

○地下鉄について現在は全額市の借金で建設しているが、国の補助が多くならないと展望が開けないので、国・国会議員への働きかけも必要だと思っている。地下鉄は公共事業で国や市の税金投入がなければ成り立たない事業であり、国にもう少し多くの負担を求める制度が必要と考える。

○地域の集まりで「いまさら地下鉄作るのも負担」という声も多い、大変かも知れないが、一度、アンケートなど区民の声を聞いてみる必要があるのではないか。

○地下鉄は国の認可事業という事が前提、不景気になってからは抑制する方向が続いている。

若干の光があるのは北広島との広域圏連携で解決すべき問題が出て来ている。北広島と清田間の交通が非常に混雑しており十年前の二倍で未だ増えると云われている。こうした事

活動しています
〝交通安全母の会〟
女性部・母の会

私たちは町内会連合会女性部の部員で〝母の会〟のメンバーでもあります。メンバーは各町内会の女性部長十三名で組織され、日々様々な活動を行っています。行動的に派手さは無いので、多くの人たちの目に留まる事が少ないかも知れません。

活動の内容は交通安全の街頭啓発はもとより、区民まつりでのフリーマーケットの管理、一円玉募金など様々です。中でも力を入れているのは新一年生へ手渡す「贈り物」の製作です。毎年、全員が知恵を寄せ合い「よろこぶ児童」を想いながら、今年は三カ月程の日時をかけて作り上げています。

今年はそれぞれにメッセージを入れた「小物入れ袋」を完成させました。プレゼントはメンバーが有明、真栄、清田小学校に出向き児童一人々に手渡して交通安全について話して来ました。毎年「贈り物」を続けていますが、願いは「無事故で元気に通学して欲しい」のひと言です。メンバーは子どもたちが今日も幸福に過ごせるよう願いながら運動を進めています。

（山田まゆみ）

を踏まえて今作っているのが、まちづくり戦略ビジョンである。清田の中心核をどこに置くのかを含め議論していく。

○きちんとした需要予測がないと国の免許は下りないと市の担当部署は云っている。

○地下鉄は公共財の最たるもので、ある程度赤字でも必要なものは整備すべきと思う。清田区内の機運の盛り上げと、区外や市外の人にアピールする事も必要だ。

アピールする方法で日ハム選手に協力してもらうのも。

○要望書を市議会に提出し〝清田区の地下鉄を検討する〟という答弁、言質をとらなければならない。

○期成会は我々が議会で頑張るための材料を作って欲しい。

○企業を巻き込み清田区にある企業はどこでもポスターが張ってあるような雰囲気が大事だ。

○例えば「地下鉄延伸の日」を設定し、その日に街頭啓発やティッシュ配りなどをして区民の意識を高める。またキャッチフレーズを考えポスターや看板、幟を設置する。

○住民の声は大きい、区民の声を上げることが大事。

寒さ続き開花足踏み
桜ウォーキング

清田区の桜が集中する〝あしりべつ桜並木通り〟で、こどもの日の五月五日も、「桜ウォーキング&散策・花見会」が開かれました。寒さが続いていることの日も朝八～九時で六～七度と四月上旬の気候となりましたが、スタート時点には高齢者、家族連れなどが元気な姿を見せました。

コースはあしりべつ桜並木通り～清田緑地～清田公園～あしりべつ川沿いの三・五キロ。

スタート時点でも空模様は曇り、気温も上がらず参加者達は白い息を吐きながらの出発となりました。

それよりも残念だったのは、並木のえぞ山桜が寒さに尻込みしたのか開花せず蕾を硬く閉じたままの状態。自然には勝てぬとばかり参加者達は恨めしそうに蕾を〝愛でながら〟歓声もなく黙々とウォーキングを続けていました。

この後は楽しみの「花見会」。会場にはジンギスカン鍋が用意され、参加者たちはもくもくと湯気が上がる鍋を囲みながら話に〝花〟を咲かせひと時を過ごしていました。

尚、〝あしりべつ桜並木通り〟では平年より十二日間遅い五月十三日に開花、三～四日後には満開となり多くの人たち目を楽しませました。

続・お母さん 知っていますか?

ベテラン指導員が語る 下校後・公園で子どもたちは…

前回（二十五年一月号）は朝の学校前の出来事を紹介しましたが、今回は下校後に子どもたちが体験したひとコマを再現して見ました。

▼こわい体験？

某日の午後、公園に足を運ぶと、多くの子どもたちが集まって「大変なの、変な人が居る、こわいこわい」と騒いでいる。問い質してみると、「髪を赤く染めて花柄のジーパンをはき、ピンクのリュックを背負い住宅街の方向に歩いて行った、こわくて家に帰れない」と云う。

一人では対応が出来ず学校に連絡して先生に応援を依頼し来てもらった。そして児童から情報を収集、教頭先生も駆けつけ、早速、車で付近をパトロール、他の先生は男が歩いて行ったという住宅街へ。私も子どもたちと一緒に公園を見回りました。

みんなの協力の結果、ほどなく変な人という人物が判明、その人は廃品回収業の若い男性でピンクのリュックの中にはゴミ袋やペーパー類などが入れてありました。

全て解決したため、それぞれが帰路に着くはずでしたが「こわい」という心理からか、一人で帰るのが「こわい」という子どもが多く、一人ひとり玄関先まで送り届け、無事公園での騒動は終わりました。廃品回収のお兄さんお騒がせしました。

▼夏休みのある日

暑さが続く七月、防犯パトロールのため公園に足を運ぶと子どもたちが「変な人が居る」と報告して来ました。また変な人か!!と思いながら話を聞くと、口々に「裸で走っている人が居る」と云う。

そして公園の一番高い場所へ連れて行かれ「ほら、あそこを見て」と云う。確かに上半身はだか、ジョギング中の男性である。暑さのためTシャツを脱ぎ首に巻いて走っていました。状況を詳しく説明して一件落着しました。

公園などを見回りしていますと子どもたちに関する様々な「事態」に多く遭遇します。

〝すべり台から走って降りてくる子ども〟〝一番上から飛び降りて手首を骨折した子ども〟もいました。

小さな事も見逃さずにパトロールするのは絶対に無理ですが、子どもたちと友達になると様々な事を教えてくれます。子どもたちは事件事故予防の小さな発信源です。良い事も悪い事も、その時々で話し合い解決して行く事が必要ではないでしょうか。

卒業式を終えた児童の向かう所は?

毎年三月は六年間の学校生活最後のイベントである卒業式が執り行われます。入学時から見てきた私は感無量で、毎年涙を抑える事が出来ずにいます。美しが丘小学校で式を終えた一部の卒業生は自分たちが以前に通っていた美しが丘幼稚園に向かいます。

卒業生は自分の家に帰って来た時のように、ドアを開けて遊戯室に集合します。そして園長先生をはじめ先生たちが「おめでとう」の言葉で迎えます。そんな場面を見たとき、幼稚園ってなんて素敵な所なんだろうと思わずにはいられません。

子どもたちは物心が付いた時に、自分たちを大切にし様々な事を教えてくれた〝家〟を忘れることなく「今日、小学校を卒業したよ」と報告に訪れるのです。最後に先生を囲んで記念撮影。素敵な笑顔の写真は職員室に飾られています。幼児・児童教育の大切さが身にしみて判る一例を報告してみました。

（真栄団地　山田まゆみ）

◁四月　交通安全街頭啓発

▷六月　こがもちゃんバス遠足

◁七月　清田区民まつり

▷八月　清田区防災訓練

清田地区町内会連合会年間主要事業

年　月	事　業　名　・　内　容
平成25年4月	・清田地区町内会連合会総会（総務部） ・防犯パトロール、子どもを守る強化月間（防災・防犯部） ・春の交通安全街頭啓発（交通安全対策部）
5月	・清田区女性部連絡協議会総会（女性部）
6月	・不法投棄対策事業（一回目）（保健衛生部） ・役員一日研修（総務部） ・青少年育成委員会全体研修会（青少年育成部）
7月	・夏の交通安全街頭啓発（交通安全対策部） ・第35回札幌市社会福祉大会（福祉厚生部） ・第14回パークゴルフ大会（体育部） ・連合会だより55号発行（広報部）
8月	・清田区民まつり（総務部・交通安全対策部・青少年育成部） ・清田区防災訓練（防災・防犯部） ・清田区５町連地区対抗壮年野球大会（体育部） ・親子レク（青少年育成部）
9月	・秋の交通安全街頭啓発（交通安全対策部） ・厚別神社祭典見まわり（青少年育成部） ・第38回歩く運動（体育部） ・清田地区女性部長会議（女性部）
10月	・秋の地域安全運動道民集会（防災・防犯部） ・共同募金活動（福祉厚生部）
11月	・冬の交通安全街頭啓発（５地区合同） ・大縄跳び大会（青少年育成部）
12月	・第３回保健衛生部会（保健衛生部） ・清田町連歳末防犯パトロール（防災・防犯部） ・親子餅つき大会（青少年育成部） ・１円玉募金取りまとめ（女性部）
平成26年1月	・地区新年交礼会（総務部） ・成人式（参加協力）（青少年育成部） ・連合会だより56号発行（広報部）
随　時	・子どもの見守り活動（防災・防犯部） ・防犯夜間パトロール（防災・防犯部）

清田地区社会福祉協議会（福祉のまち推進センター）年間主要事業

年　月	事　業　名　・　内　容
平成25年5月	・『清田地区社会福祉協議会』定期総会
6月	・「こがもちゃんバス遠足」実施
7月	・「ほほえみバス旅行」実施
9月	・第10回 こがもちゃんミニオリンピック大会実施 ・清田地区社協「福祉まつり」
11月	・『友愛訪問』実施
12月	・第11回 福まちお楽しみ会実施

◁一月　新年交礼会

▷十二月　親子餅つき大会

平成25年度 清田地区町内会連合会役員名簿

役職名	氏名	所属町内会	備考
顧問	長岡武夫	清田町内会	
	林　茂	清田町内会	
	紙栄吉	東真栄町内会	
会長	牧野晃	真栄第四町内会	
副会長	清野廣一	真栄団地町内会	真栄団地町内会総務部長
	田崎克典	真栄第三町内会	福まち運営委員長
	松原宏悦	清田有楽町内会	
監事	畠山昇	新平岡町内会	
	齋藤博美	真栄第一町内会	
総務部長	清野廣一	真栄団地町内会	
財務部長	角口八郎	東真栄町内会	
福祉厚生部長	大滝正	清田町内会	清田地区民児協副会長
保健衛生部長	西海利一	真栄第二町内会	
防災・防犯部長	横江光良	清田有楽町内会	
交通安全対策部長	本間亜輝	新平岡町内会	新平岡町内会副会長
青少年育成部長	田上雄二	真栄第一町内会	
女性部長	茂木良子	真栄第二町内会	
体育部長	住吉誠一	真栄第一町内会	清田体育振興会会長
広報部長	小山田義信	真栄団地町内会	真栄団地町内会副会長
理事	林憲	清田町内会	清田町内会会長　清田地区青少年育成委員会会長
	大谷邦昭	清田有楽町内会	清田有楽町内会会長
	菊池康巨	新平岡町内会	新平岡町内会会長
	藤本石雄	真栄第一町内会	真栄第一町内会会長
	長屋俊一	真栄第二町内会	真栄第二町内会会長
	畑中悟利	真栄第三町内会	真栄第三町内会会長
	齋藤卓三	真栄第四町内会	真栄第四町内会会長
	小林秀雄	東真栄町内会	東真栄町内会会長
	遠藤定一	真栄団地町内会	真栄団地町内会会長
	山崎道広	美しが丘町内会	美しが丘町内会会長
	川瀬俊昭	有明町内会	有明町内会会長

お気軽にお越し下さい

清田まちづくりセンター

清田まちづくりセンター所長の村椿です。去年の四月に着任して早いもので一年三ヵ月余りがたちました。この間、清田地区の皆さんのまちづくり活動をお手伝いしてきましたが、皆さんのお顔を覚えるので精一杯、今年はもっとお役にたてるよう頑張りたいと思います。

さて、まちづくりセンターは地域にとって一番身近な市役所の窓口ということで皆さんの「まちづくり活動」をお手伝いしてまいりましたが、四月から「まちづくりセンター所長」の肩書きに加えて「地区福祉活動支援担当課長兼務」という肩書きが増えました。これを機会に地域おける福祉活動にも積極的にかかわっていき、支援を必要としている皆さんのお力になりたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。清田まちづくりセンターは今後とも皆さんの地域活動の拠点として運営してまいります。私をはじめ、まちづくり支援員二名がお待ちしておりますので、どうぞお気軽にお越しください。

（所長　村椿　浩基）

編集後記

町連の組織に広報部が新設されたのが平成十七年の四月、今年で八年目を迎えました。学校で例えれば中学二年生になりました。

七月と一月の年二回発行の連合会だよりも「清流　あしりべつ」となってから今月で十七号目となり、内容も「分かり易く」をモットーに編集しています。部は各町内会から選ばれたメンバーで構成されており、ベテラン、新人が話題の発掘・取材に励んでいます。「こんな話題」がありましたら部員にご連絡下さい。もちろん、皆様からの原稿も大歓迎です、お待ちしております。

二十五年度の広報部員です（五十音順）

飯部　紀昭（清田有楽）
池田　敏夫（真栄第一）
小山田義信（真栄団地）
小山　眞（東真栄）
佐々木康子（真栄第四）
清水　芳洞（真栄第三）
千島　豊（美しが丘）
長屋　俊一（真栄第二）
三原　武晴（清　田）

編集協力

清水　延明（エンブレム）
松原　宏悦（清田有楽）
村椿　浩基（まちづくりセンター）